

特集

フォーラム2013 報告

「全国犯罪被害者支援フォーラム2013」は、全国被害者支援ネットワークと日本被害者学会、犯罪被害救援基金、警察庁の主催により、10月18日（金）午後1時から東京都千代田区のイイノホールで「犯罪被害者支援における連携のあり方」をテーマに開催しました。参加者は全国から被害者支援センター、行政機関、警察などの関係者、一般参加者ら420人にのぼりました。

フォーラムには秋篠宮同妃両殿下が一昨年にご臨席され、第2部パネルディスカッション「犯罪被害者支援における連携と今後の展開」をご聴講されました。パネリストからは昨年4月、死者7人、重軽傷者38人を出した関越自動車道高速ツアーバス事故での被害者支援を例に、機関・団体や県境を超えた連携の成果や今後の課題が示されました。

フォーラム第1部では、平井紀夫全国被害者支援ネットワーク理事長の開会あいさつに続き表彰式が行われ、犯罪被害者支援功労者として特別栄誉章1名、栄誉章6名が表彰されました。また犯罪被害者支援功労団体として3センターが表彰されました。

パネルディスカッションをご聴講の秋篠宮同妃両殿下

平井理事長挨拶

さらに、犯罪被害者支援活動への格別な支援・協力に対する感謝状が2名の方々に贈られました。

引き続き、来賓祝辞を古屋圭司国家公安委員会委員長（山本剛嗣同委員会委員代読）、山岸憲司日本弁護士連合会会長（田村裕同会副会長代読）からいただきました。

このあと「被害者の声」として、被害者支援センターとちぎの相談補助員で被害者遺族の小佐々冽子さんに「私の体験と支援に求めること」と題して講演をしていただきました。小佐々さんの夫は、市職員だった2001年10月末、市への不当要求をはねつけたのを逆恨みした業者らに帰宅途中に拉致、殺害され、ご遺体は今も見つかっていません。小佐々さんは12年を振り返り、さまざまな苦しみや悲しみ、不安や二次被害、子どもたちへの気配りなど、今も続く過酷で悲痛な体験の数々を語り、支援センターへの感謝とともに、支援員に対しては「被害者を思いやる心、人の気持ちを察する心、創造力に富んだ思慮深い心を持っていただきたい」と訴えられました。

最後に黒澤正和犯罪被害救援基金専務理事が開会あいさつを述べ、午後5時閉会しました。

発行：公益社団法人全国被害者支援ネットワーク